

早生のクッキングトマト新品种「すずこま」

研究のねらい

加熱調理するとおいしいクッキングトマト品種には「にたきこま」がありますが、熟期がやや遅い上に植物体が大きいため、収穫時期が限られていた。そこで、早生で植物体が小さく、低段密植やハウス・雨よけなどの施設栽培に適する品種を育成する。

成果の内容

- ①「すずこま」は50～60cmで心止まりするコンパクトな草姿(表1)のため、頂芽摘心や腋芽とりが不要で、低段密植養液栽培(写真1)にもっとも適する。
- ②果実は30gと小さいが、果数が多いため多収である(表1)。糖度はやや低いが、抗酸化能の高い色素リコペンの含量は7.9mg/100gと、「桃太郎ヨーク」の5.6mg/100gより高い。
- ③果柄に節がないジョイントレス性を持ち、ヘタなしや房取り収穫に適する(写真2)



写真1 低段密植養液栽培中の「すずこま」



写真2 房取り収穫した「すずこま」

表1 「すずこま」の特性

品種・系統名	心止まり高(cm)	収量(g/株)	1果重(g)
すずこま	55	1230	31
桃太郎ヨーク	—	640	130
にたきこま	118	1190	52

成果の利活用

- ① J A全農との共同育成品種であり、加熱調理に非常に適していて、鮮やかな赤色と優れた食味が特長である。
- ② 苗を植え付けて短期間に栽培収穫を終わらせ、年3回程度作付ける「低段密植養液栽培」用に育成したが、雨よけ土耕、露地栽培も可能である。